

⑱ かぶき岩の枕状溶岩

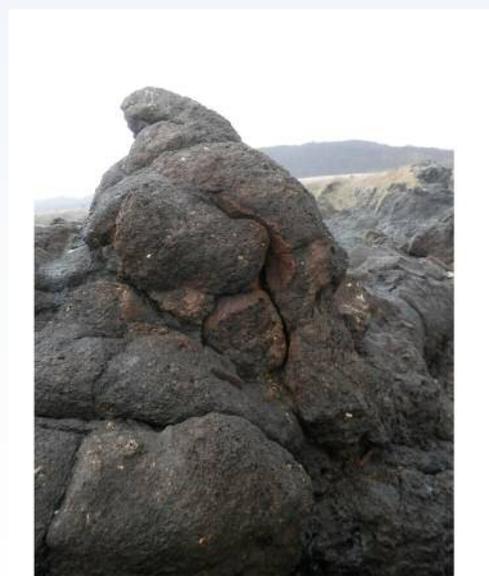
「春が近づいてきたね。今年最初はどこに行こうか」「まだ見たことのないかぶき岩の枕状溶岩を観察に行きましょう」。

入道崎から約 3kmほど南方の海岸にかぶき岩という岬があります。露出している岩石は門前層の長楽寺玄武岩部層で岬の先端付近で枕状溶岩を見ることができます。

「あっ、ここには枕のような形の大きな岩がたくさん積み重なっているよ。これはまさしく枕状溶岩だ」「確かに高温の溶岩が水中に流れ出した瞬間が伝わってくるわ」と2人はその迫力に興奮した様子。「つまり水中で高温の流動性の高い溶岩流が急冷してその表面を突き破ってマグマがまた流れ出したということだね」「その通り。マグマが急冷して表面はガラス状の鞘に包まれるんだけどマグマの重みで破れて前方に流れ出してそれらが積み重なったということね」と今までジオパーク学習センターで学んだことを思い出しています。

どんどん岬を進んでいくと、ジオ美ちゃんが突然、指さしました。「そこに、流れ出した枕状溶岩がソーセージのように垂れ下がったようになった大きな岩が見えるわ。すごい迫力ね」(写真下)。「あれっ、この下のほうの岩にはしわ状構造も見えるよ。これはパホイホイ溶岩に特徴的な模様だよ」とジオ太くんも負けじと声を上げました。「岩にたくさんの白い斑点があるわ。これは枕状溶岩の気泡にできた二次鉱物ね。沸石かしら」。「今までの観察から推定するとこの付近は後期始新世の時期に浅い水底にあったということかな」と2人の会話は止まりません。

「男鹿半島ってすごいね」「地球って生きている感じがするわ」と2人はお互いの言葉に頷きながら帰路に着きました。「今年も男鹿半島・大潟ジオパークの魅力をいろいろ発見する」と心に決めながら…。



枕状溶岩